

「しんぶん赤旗」2004年7月15日付記事から

岡山足守川パイプライン計画
反対強ければ中止も
住民代表に農政局側

岡山南部農業水利事業計画のうち、足守川パイプライン計画に反対する県民の運動が大きく広がっています。

七月に入ってから岡山市新庄上、下の住民代表十人が五日、岡山市の農林水産省中国四国農政局を訪れ、同事業の中上を求める署名二百三十五世帯分を提出しました。日本共産党の田畑けんじ、藤沢和弥、崎本とし子各岡山市議も同席しました。

代表の三垣昭忠・新庄上水利委員は「農政局は十分な説明がなかった。パイプライン化で用水供給量が大幅に減少し農業経営が著しく困難になる。計画の同意(一九九八年)を撤回し、パイプライン化の中止を要求します」と申し入れました。同局の菅野幸臣・整理部水利整備課長が「住民の反対の声が強ければ、計画の中上もありうる」と、初めて中止に言及。一般論としながら「土地改良事業は、農家の強い反対を押し切って強行するものではない。反対が強ければ中止することもありうるが、賛成する方もいるので、賛否両者と農政局が話し合う機会を持ちたい」としました。

住民らは「さらに運動で追い打ちを」と、集会など、運動の強化策について協議をすることにしています。

パイプライン計画

岡山、倉敷両市など三市二村の農業のかんがいをする十二ヶ郷(じゅうにかこう)用水路を改修する農水省の「岡山県南部地区国営かんがい排水事業」の一部。足守川にそう八・二キロを百九十億円をかけてパイプライン化する計画です。

